



助けられ大賞

「ご近所さんに助けられて」

須坂市松川町 宮本信子

定年退職後の人生設計、そんな思いで、これからはお互いに好きな事をして……。主人はソフトボール、俳句と趣味を楽しみ、町の要職も経験させて頂き、ホッとしたことを覚えています。

そんな時、主人の体に変調が表われました。病名がつかないまま病院のハシゴ生活が3～4年、2008年にやっと病名がついた時には、一人ではどこへも自由に出歩ける状態ではありませんでした。

道で転んで近所の方の肩をかりて帰って来たり、大好きな車の運転もままならず、本人の落胆は大きかったと思いますが、それからは日に日に目に見えて病状は進み家の中でも車椅子、大好きなお風呂も自由に入ることが出来なくなっていました。

現在は通所リハビリにお世話になって手厚い介護を受けて生活していますが、家でいったん動けなくなった時は、私の力では起こすことも持ち上げることも、もちろん車に乗せることもできません。そんな時、ご近所さんに「ちょっと力かして～」とお願いして助けて頂いていますが、日常生活の中で「困った時はお互いさま」とは言いながら、さて誰にお願いしようか？ではなく誰にでも声をかけて助けて頂けるように、近所付き合いも常日頃の心がけと思って素直な気持ちで今の主人の状態を隠さず話しています。

七十何世帯の小さな町ですが、大きな家族のような気持ちの良い町です。

何かの集まり、町の行事（夏祭り、餅つき）の時、おいしい物があつたとき等、外へ出られない主人に心を寄せてくださる方々から「これ、お父さんにお土産に・・・」と持たせて頂いたり、大雪のとき等「車庫の屋根、大丈夫？」とつかい棒を立てて頂いたり「ついでだから包丁といでやるよー」とか男手のない我が家のために、いつも心にとめて頂き「いつでも困った時は声をかけて」と言って頂ける言葉のありがたいことに、毎日が感謝です。

まだまだ何年続くかわからない介護の日々ですが、皆様の好意に甘えすぎることなく、主人ともどもがんばって行こうと思います。